

2019年 10月 子育てワンポイント

テーマ「 絵本の役割 」



乳幼児期の絵本の読み聞かせが大切だといわれる一番の理由は、乳幼児期には脳が著しく発達するからです。乳幼児期の脳は、3歳までに成人の約80%、6歳までに90%完成すると言われています。そのため乳幼児期の脳の刺激はとても大切なのです。

3つの 絵本の役割

《1つ目》

親子でのコミュニケーションをとれることです。読み聞かせをするとき、子どもを膝の上にのせたり、寝る前に顔をくっつけたりしているかもしれません。この近い距離での読み聞かせが、スキンシップにつながります。

《2つ目》

感情・想像力を育むということということです。最初は読み聞かせをするお父さんお母さんが、子どもと一緒に喜んだり、悲しんだり、怖がったりすることで、子どもは色々な感情を学んでいきます。そのうち、子どもは絵本から様々な感情を読み取れるようになり、子どもの感情は豊かになっていきます。また、テレビやアニメとは違い、自分のペースで進めることが出来るため、じっくり絵を見たり、次はどうなるのかを予測したりすることもできます。

《3つ目》

語彙力を伸ばすということことです。絵本の中の色々な言葉に触れ、その意味を知ることによって、子どもはその言葉を使って会話ができるようになります。語彙力だけでなく、言葉の音やリズム、繰り返しの面白さなどにも気づくことができます。

月齢別の 絵本の選び方

(0～1歳児)
言葉の音やリズムが楽しいもの。

(1～2歳児)
身近なものや子どもが知っているものが出てくるようなもの。

(2～5歳児)
だんだん物語が把握できるようになるため、物語性のあるもの。

子どもは、成長するにつれて、徐々に一人で絵本を読むようになっていきますが、だからといって絵本の読み聞かせをストップする必要はありません。親子でのコミュニケーションの一つとして、ぜひ絵本を用いてみてくださいね。

